

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：村山 一弥

事業名 一般国道312号 <small>おおみやみやま</small> 大宮峰山道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局	
起終点 自：京都府京丹後市峰山町新町 至：京都府京丹後市大宮町森本	延長 5.0km		
事業概要 山陰近畿自動車道は、日本海国土軸を形成する道路で、主要都市（鳥取市、豊岡市、宮津市）の連携を強化すると共に、広域観光の推進や災害時の代替路を担う延長約120kmの地域高規格道路である。 大宮峰山道路は、山陰近畿自動車道の一部を形成し、並行する国道312号のバイパスとして、災害に強い道路ネットワークの形成、交通混雑の緩和や救急医療の搬送時間短縮に寄与するほか、丹後地域沿岸部の観光施設へのアクセス性向上による観光産業の活性化を目的とした延長5.0kmの道路である。			
H27年度事業化	H11年度都市計画決定 (H18年度、H26年度変更)	H-年度用地着手	H-年度工事着手
全体事業費 160億円		事業進捗率 約1%	
供用済延長		ー	
計画交通量 10,000台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) ー	総費用 (残事業)/(事業全体) 133/133億円 事業費：110/110億円 維持管理費：24/24億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 217/217億円 走行時間短縮便益：169/169億円 走行経費減少便益：36/36億円 交通事故減少便益：11/11億円
基準年 平成26年			
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.4~1.9(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.5~1.8(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.5~1.7(事業期間±20%)			
【残事業】交通量：B/C=-(交通量 ±10%) 事業費：B/C=-(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=-(事業期間±20%)			
事業の効果等			
①交通混雑の緩和 ・並行する国道312号の交通量は18,000台/日と多く、大宮峰山道路への交通転換により、交通混雑の緩和が期待。与謝野町の北部医療センター(旧 与謝の海病院)が平成21年より医療機能を充実・強化し、町内以外の広域的な受け入れを開始。京丹後市からの救急搬送数は約3倍に増加。大宮峰山道路の整備により、救急搬送時間の短縮、搬送患者の負担軽減が期待。			
②交通安全の向上 ・大宮峰山道路の並行区間である国道312号では、事故危険箇所が3箇所あり、前後区間に比べ、死傷事故が多発。当該区間では、交通混雑や沿道施設への出入りによる追突事故が発生。大宮峰山道路への交通転換により、交通混雑が緩和され、安全性の向上が期待。			
関係する地方公共団体等の意見			
地域から頂いた主な意見： 平成29年11月30日、丹後・地域高規格道路推進協議会から、「山陰近畿自動車道整備推進決起大会」にて、大宮峰山道路の事業推進の要望を受けている。			
京都府知事の意見： 大宮峰山道路は並行する国道312号のバイパスとして、周辺地域の交通渋滞の緩和や、丹後地域沿岸部の観光施設へのアクセス機能向上による観光産業の活性化が期待されており、対応方針(原案)のとおり、引き続き事業を推進し早期の完成をお願いします。			
事業評価監視委員会の意見			
審議の結果、「一般国道312号大宮峰山道路」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切であり、対応方針(原案)のとおり「事業継続」することが妥当と判断される。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等			
平成27年7月、京都縦貫自動車道が全線開通、平成28年10月、大宮峰山道路に接続する野田川大宮道路が開通し、京都市内から京都北部への高速道路ネットワークが強化され、来訪者の増加が見込まれる。国道312号の交通量は近年横ばいで推移しており、依然として交通容量を超過している。			
事業の進捗状況、残事業の内容等			
平成27年度に事業化、用地進捗率0%、事業進捗率約1%(平成29年度3月末時点)			

